

令和2年度  
都立品川特別支援学校  
**スモールステップ表**



## 本校が目指す「品川の教育」について

### はじめに

本校は、知的障害教育特別支援学校（小・中学部）として9年目を迎えた。開校から8年間には、保護者、地域・関係諸機関の温かい協力を基盤に、知的障害教育特別支援学校として、教育活動の基礎・基本の整備がなされてきた。来年度10周年迎えるにあたって、本校の教育活動をまとめるとともに次の段階のあるべき姿を想定して、研究・研修活動に力を注ぎ込まなければなりません。

東京都特別支援教育推進計画（第二期）・第一次実施計画の個別事業では、知的障害や発達に課題のある児童・生徒への指導方法の開発が施策として位置付けられています。

知的障害教育特別支援学校（小・中学部）である本校の使命は、教職員が一丸となって研究・研修により専門性を高めることにあると考えます。

### 本校の研究・研修活動について

平成31年度の学校経営計画の最重点目標に、教育公務員としての専門性の向上（指導力等の向上）を目指した研究・研修活動の推進を明確に位置づけ、次の3つの柱で個に応じた指導の徹底と専門性の向上を図る研究・研修活動の充実を図ってまいりました。

①授業者サポート研修 ・主体的な、対話的な授業改善及びOJT研修

②指導技法を学ぶ選択研修

・大学教授や授業実践者による多様な指導方法の学びより選択し、地域の特別支援学級の教員と合同研修

③スモールステップ表による指導方法の研究

・平成30年度 一人通学のスモールステップを作成し指導実践

・令和元年度 国語・保健体育・日常生活の指導のスモールステップ表作成

### スモールステップ表の作成方法について

スモールステップ表を作成するにあたり、「Vineland-II 適応行動尺度」という、国際基準の標準化された行動項目を参考にしました。適応行動とは、個人的、また社会的充足に必要な日常生活の能力のことです(Sparrow SSら,2005)。児童・生徒が将来、自立・社会参加ができるには、この適応行動の観点で、現在どういう行動が実際にできていて、次にどんなことができるようになるのかを客観的に評価し、育成を目指す資質・能力を整理し、指導内容や指導方法を明確にしていくことが必要です。

校内研究では「国語」「体育」「日常生活の指導」の3グループに分かれ、Vineland-II 適応行動尺度の行動項目を、本校の児童・生徒の実態により合うように検討を重ね、品川特別支援学校独自のスモールステップ表を完成させました。また、新学習指導要領(小学部は令和2年度、中学部は令和3年度より施行)との関連性も整理しました。

今後、スモールステップ表を活用することにより、更なる具体的な実態把握と、指導・支援のP(計画)-D(実施)-C(評価)-A(改善)サイクルを確立したいと考えます。

# 目次

---

「話す」	.....	1
「聞く」	.....	2
「投げる、捕る」	.....	3
「昇り降り、跳ぶ」	.....	4
「排せつ」	.....	5
備考 「立ち便器利用に向けての課題分析」	.....	6
「生理時の処置についてのポイント」		

## 話す

1. 空腹やオムツがぬれるなどで、泣いたりぐずったりする
2. 喜びの声を発する（例：「うー」「あー」笑う）
3. 微笑みかけられると微笑む
4. 大人の発声に応じて真似る
5. 喃語を話す
6. 大人の手を引っ張って要求する（クレーンも可）
7. 教師の注意をひくために声を出したり身ぶりを使ったりする
8. トイレや食べたいなどの生理的要求をサインで訴える
9. 活動を止めたかったり続けたかったりするときに、声を出したり身ぶりを使ったりする
10. 他の人が手を振ったり、大人が手を振るように言ったりするとバイバイと手を振る
11. 届かないところにある欲しい物を指さす
12. （例えば、「これとこれ、どっちが欲しい？」など、選ぶように言われると）好きな方を指さす、または身ぶりで示す
13. 「ママ」「パパ」などの言葉が言える
14. 聞いた言葉をすぐに繰り返す、または繰り返そうとする（例：「車」「行くよ」）
15. 少なくとも1つの物の名前が言える
16. 少なくとも3つの物の名前が言える（例：犬、好きなおもちゃなど）
17. 1語文の要求が言える（例：「だっこ」など）
18. 名前を呼ばれて返事をする
19. 質問されると「はい」か「いいえ」で答える
20. 質問されると、目の前にある選択肢の中から 言葉で答える、または答えようとする
21. 少なくとも10個の物の名前が言える
22. 名詞や動詞を使った簡単な文を話す（例：「お家に帰る」など）
23. 2語文の要求ができる
24. 否定文を使う（例：「行かない」「それ飲みたくない」など）
25. 少なくとも50語が話せる（相手に分かる）
26. 「はい、〇〇です」と答える
27. 「わかりません」「教えてください」が言える
28. 簡単な文で「～している」「～しています」を使用して話す

29. 簡単な文で経験を話す（例：「けいちゃんと遊んだ」など）

30. 時を表す言葉を入れて、簡単な文を話す（例：きのう、さつき）

## 聞く

1

1. 音の方に顔を向ける

2. 好きな音や音楽に反応する（笑う）

3. 身近な人の声に注意を向ける

4. 自分の声に気付く

5. 名前を呼ばれると反応する（例：話し手の方を振り返ったり、微笑んだりする）

6. 大人の怒っている表情や言葉に反応する

7. 1語の指示（名詞）を理解して行動する

8. 1語の指示（動詞）を理解して行動する

9. 「見て」「聞いて」など注視に関する指示に応じた行動をとる（例：相手の顔を見て話を聞く）

10. 「だめ」という言葉やジェスチャーを理解して行動する（例：すぐにその活動をやめる）

11. 「いいよ」という言葉やジェスチャーを理解して行動する（例：活動を続けたり、微笑んだりする）

12. 「ちょうだい」の言葉に従う

13. 「～はどれ？」と聞かれ、具体物を指さす

14. 「～はどれ？」と聞かれ、絵本にある物を指さす（例：犬、車、コップ、鍵など）

15. 「～はどれ？」と聞かれ、離れた物を指さす、または取ってくる。距離をのばしていく

16. 1つの動作、1つの具体物を含む指示に従う（例：「本を持ってきて」「ドアを閉めて」）

17. 尋ねられると、少なくとも3つの体の部位を指さす（例：頭、目、鼻、口、耳、手、足、おなかなど）

18. 尋ねられると、少なくとも5つの体の部位を指さす（例：指、ひじ、歯、膝、つま先など）

19. 目の前にない物の色を聞いて答える

20. 目の前にない物を「～持ってきて」と言うと持ってくることができる

21. 字義通りでない言い回しを理解する

## 投げる、捕る

1. ボールに手を伸ばす
2. ボールを掴み、放す
3. 座っている姿勢でボールを転がす
4. ボールを意図的に落とす
5. 握りやすい大きさのボールを投げる(投げ方は問わない)
6. 相手や目的物を意識して、ボールを投げる(例:声のする方向を向いて投げる)
7. どんな大きさのボールでもよいが、狙った方向に投げる
8. 転がってきたボールを目で追い両手で捕る(両手で止めるも可)
9. 約1 m離れたところから投げられたビーチボールサイズのボールを両手で掴む
10. 投げられたボールに注視し、両手を出す
11. 2 m以上離れたところから投げられたビーチボールサイズのボールを両手で掴む
12. 投げられたボールに注視し、両腕や手の動かし方を工夫して捕ろうとする
13. 3 m以上離れたところから投げられたテニスボールサイズのボールを掴む。  
必要なら掴むために動く。
14. ボールが来る方向に前後左右ステップを踏んで近付き、両腕を引いて捕る
15. 相手が捕りやすい箇所を狙って投げる
16. 簡単な集団遊びをする(例:キャッチボール)

## 昇り降り・跳ぶ

- |  |
|--|
| 1. 教師の手などを掴みながら踏み台によじ昇ったり、降りたりする           |
| 2. 高さの低い椅子や踏み台などを昇ったり降りたりする                |
| 3. 高さの低い椅子や踏み台などを二足一段で昇降する                 |
| 4. 高さの低い椅子や踏み台などを一足一段で昇降する                 |
| 5. 大人サイズの椅子を昇ったり降りたりする(よじ昇る、跳び下りるも可)       |
| 6. 教師と両手を持って上にジャンプする                       |
| 7. 教師と両手を持って前方にジャンプする                      |
| 8. 一人で片足や両足で上方にジャンプする                      |
| 9. 両方の足を揃えて段をジャンプして降りる                     |
| 10. 低い台に両手をついて、またぎ乗りやまたぎ下りをする              |
| 11. 高いものを昇り降りする(例:ジャングルジムなど)               |
| 12. 3回以上前にジャンプする                           |
| 13. 何かにつかまって片足立ちをする                        |
| 14. 転ぶことなく1回以上片足でジャンプする;バランスを保つため何かを掴んでもよい |
| 15. 片足でその場跳びをする                            |
| 16. 片足で前にジャンプする                            |
| 17. 低い障害物を片足で跳び越える(歩いても可)                  |
| 18. 2 m以上スキップする                            |
| 19. その場でケンパー跳びを連続で跳ぶ                       |
| 20. ケンパー跳びで前方に進む                           |
| 21. 助走をつけて、障害物を勢いよく跳び越える                   |
| 22. 低い障害物を走り越す(例:ミニハードル)                   |

児童生徒の日常生活が充実し、高まるように日常生活の諸活動を適切に指導する形態。この指導では、広範囲に各教科等の内容が扱われる。例えば、衣服の着脱、洗面、手洗い、排泄、食事、清潔など基本的な生活習慣の内容や、あいさつ、言葉遣い、礼儀作法、時間を守ること、きまりを守ることなどの日常生活や社会生活において必要で基本的な内容である。(平成 28 年中央教育審議会資料)

「排せつ」品川スモールステップ表項目	関連する各教科等の内容				
	身体			コミュニケーション	マナー
	感覚	機能	理解		
1. トイレに座ることに慣れる(オムツ・パンツ)					
2. たまたまトイレで成功する					
3. 褒められてうれしい、成功したことが分かる、解放感を感じる					
4. 濡れたパンツの不快感が分かる					
5. 脱ぐ等の行為で、うんち、おしっこを知らせる					
6. トイレに行く、座る等して、自ら出そうとする(応じる、見通し)					
7. おしっこをためる時間が増える					
8. トイレでおしっこができる					
9. 今は出ないと言える					
10. トイレに行きたいというサインができる					
11. おしっこが出る前に、サインや言葉で伝えて大人と一緒にトイレに行く					
12. トイレでうんちができる					
13. 自分で便器に座り、排泄できる(腹圧)					
14. 排泄したことを伝える(拭いてほしい)					
15. 失敗したことを知らせ、履き替える					
16. 日中の排泄が自立している					
17. 外出前、睡眠前、入浴前など、状況に応じてトイレに行く					
18. 尿意をコントロールして、休み時間に自分からトイレに行く					
19. サインや言葉で伝えてから、1人で行く					
20. 夜間の排泄が自立している					
21. 男性用、女性用トイレを区別でき、使用できる					

## 備考

【排せつ】スモールステップ表を基に、「立ち便器利用に向けての課題分析」と「生理時の処置についてのポイント」を作成した。品川特別支援学校における指導の共通理解として押さえておく。

### 「立ち便器利用に向けての課題分析」

1. 座って排尿できる	
2. 立ち便器の前に立てる	
3. 立ち便器の前で、ズボンを下まで全部下す	
4. 立ち便器の前で、大人が性器を整え大人の手を添えながら排尿する	大人が側で支援する
5. 立ち便器の前で、大人が性器を整え、自分は便器を持って排尿する(身体を自分で支える)	
6. 立ち便器の前で、大人が性器を整えてから、自分で性器を持って排尿する	
7. 自分で性器を持って排尿する	
8. ズボンを足首まで下して排尿する	自分で性器を持つ
9. ズボンを太ももまで下して排尿する	
10. おしりを出さずに排尿する	
11. ファスナーを下して排尿する	

### 「生理時の処置についてのポイント」

#### 【未生理段階】

- シート、包みをはがせる等の手指の操作を膝の上で行えること
- 足を広げて、丁寧に拭ける
- トイレ後の手洗いを確実にを行う
- ナプキンをあてる体験学習をする

#### 【生理時の指導】

- トイレットペーパーの巻取りをし、拭き取る(前から後ろ)
- ナプキンのあて方(目印等を頼りに)
- 個の実態に合わせたナプキン(メーカー、大きさ等)
- ナプキンの捨て方
- ショーツ、ズボンの順で上げ、足を開いてしっかり上げる
- 休み時間等の定時処置
- 家庭との連携

